

心はどれくらい脳なのか

- 分子生物学者が語る精神の科学 -

講演

糸川昌成

東京都医学総合研究所・病院等連携研究センター長

会場：東京大学駒場Iキャンパス：[14号館](#)706室

2016年5月11日 **水** 15:00—16:30

抗不安薬や抗うつ薬はヒトの心を変化させるのだから、神経伝達物質受容体を介する脳のふるまいが、心の要素を作っているのだろう。受容体タンパク質の個人差がゲノムによって決められるのだから、ゲノムを調べることが心の理解の一部になるのかもしれない。では、色も匂いも手触りもない心のどこまでが、オブジェとしての脳からくるのだろうか。ゲノム研究者が精神の科学について考えてみたい。

世話人：石原孝二（科学史科学哲学研究室）

